

ヒヤリングと資料の査閲により、コントロールを明示したフローチャートを作成し、同時に、把握したコントロールとその弱点を、ITのコントロール目標(IT3号20項)ごとに整理してコントロール・マトリックス(CM)に記載していく。その後、ウオークスルーなどにより追加・確認した事項も記載する。(解答例では省略している)  
 目的は業務に関するコントロールの理解と評価であるから、関連する手作業(手動)のコントロールも把握し記載することに留意する。  
 ここで把握された統制と弱点を、統制目標ごとに整理し、「経営者の主張」と対応させて内部統制の評価を実施し、リスク・コントロール・マトリックス(RCM)を作成する。

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点 Q:4半期 M: 月次 W: 週次 D: 日次 MD:1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動	実施頻度	正当性	項番	自動 / 手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動	実施頻度	正確性	項番	自動 / 手動	実施頻度	継続性
得意先マスタ登録	1	M	AM	新規得意先の登録において、得意先登録依頼書の記載後、営業部門長の承認印を受ける	2			RCW 営業部で起票された得意先登録依頼書、経理で承認された得意先登録依頼書がすべて、登録入力されているかどうか確認する仕組みがない	3	AM		得意先マスタ登録入力後、チェックリストが出力され照合されている。	4			RCW 得意先マスタの登録内容が定期的に棚卸(紙の管理台帳との照合)されていない
	5	M	M	得意先をランク別に管理している。EDIを行えるのはAランクの取引先のみとしている。ランクに応じて契約時に与信枠を設定し、毎月の営業会議でチェックする。												
	6	M	AM	新規得意先の登録において、得意先登録依頼書と稟議書の照合と経理部長の承認印を受ける												
	7	AM	M	得意先マスタの登録は、得意先登録依頼書に基づき、情報システム部で入力される(入力権限は情報システム部のみ)												
	8	M	AM	得意先マスタの登録の権限は、ID/パスワードにより制限されている。												
	9	M		商品登録申請書には営業部門長と担当常務の承認を受ける									10			RCW 商品マスタの定期的棚卸が実施されていない

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点

Q:4半期 M: 月次

W: 週次 D: 日次

MD:1日に何度も

Function	項番	自動/手動	実施頻度	正当性	項番	自動/手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動/手動	実施頻度	正確性	項番	自動/手動	実施頻度	継続性
商品マスタ登録	11	M		商品登録申請書を経理部が承認する	12			営業部、経理部が商品登録申請書の発行記録を情報システム部から送付されたチェックリストで確認している								
	13	M		承認済みの商品登録申請書を情報システム部で入力する					14	AM		商品登録申請書の入力後、チェックリストが出力され照合される、担当者的他上長が確認する				
	15	AM		商品登録申請書の入力担当はID・パスワードで制限されている。												
	16	M		入力後、商品登録申請書とチェックリストを入力担当者的上司が承認している												
受注①EDI					17	A	MD	EDIデータはフォーマットチェック及びコントロールトータルチェックを行う。	17	A	MD	EDIデータはフォーマットチェック及びコントロールトータルチェックを行う。				
	18	AM	D	取込処理の担当(情報システム部)はID・パスワードで制限されている。	19	A	D	送受信エラーは画面表示される	19	A	D	送受信エラーは画面表示される				
	21	A	D	取込処理の際に、得意先マスタに登録のないものはエラーとなる	20	A	D	取込処理により、受注データはすべて受注番号(連番)が自動採番される。	21	A	D	取込処理の際に、得意先マスタに登録のないものはエラーとなる	21	A	D	取込処理の際に、得意先マスタに登録のないものはエラーとなる
	22	A		取込処理の際に、商品マスタとEDIデータの価格が照合され不一致のデータはエラーとなる					22	A		取込処理の際に、商品マスタとEDIデータの価格が照合され不一致のデータはエラーとなる				
					23	A		エラーデータは受注エラーファイルに保留され、受注エラーリストが0件でも強制出力される。	23	A		エラーデータは受注エラーファイルに保留され、受注エラーリストが0件でも強制出力される。				

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点

Q:4半期 M: 月次

W: 週次 D: 日次

MD:1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動		正当性	項番	自動 / 手動		完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動		正確性	項番	自動 / 手動		継続性
		自動	手動			自動	手動			自動	手動			自動	手動	
	24	M		受注エラーリストの修正は営業部で実施される	25	M		受注エラーリストは営業部でエラー内容につき得意先と照合され修正される	25	M		受注エラーリストは営業部でエラー内容につき得意先と照合され修正される				
					26	A	MD	受注エラーリストの修正入力後、受注エラーファイルに保留されているエラーファイルがすべて修正済みであることを確認してから受注ファイル(ジャーナル)が更新される RCW 未修正のエラーデータがないことの確認は画面だけでなされている。								
					27	M		RCW 修正入力後ブルーリストを出力してエラーリスト(修正後)とチェックしていない	27	M		RCW 修正入力後ブルーリストを出力してエラーリスト(修正後)とチェックしていない				
受注②引当処理	28	M	MD	変更処理された受注残データは、営業部により受注変更依頼書に起票される。 * 営業部内で受注変更依頼の承認はなされているのか。	29	A	D	引当不可能な受注データについては、受注ファイル(ジャーナル)に引当済みのフラグのないものの有無が把握され、未引当データは受注残ファイルに書き出されるとともに、受注残チェックリストが強制出力される。	30	AM		引当処理実施後、引当チェックリストが出力され営業部でチェックされる * 何をチェックしているのか。手作業でのチェックが必要か。				
					31	AM	MD	受注変更処理後、受注変更チェックリストが出力されチェックされる。	31	AM	MD	受注変更処理後、受注変更チェックリストが出力されチェックされる。				
					32	AM		確定処理指示により出荷ファイル(引当データ)を在庫システムの出荷指示ファイルに送信し、送信完了を画面で確認している								

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点

Q:4半期 M: 月次

W: 週次 D: 日次

MD:1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動	実施頻度	正当性	項番	自動 / 手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動	実施頻度	正確性	項番	自動 / 手動	実施頻度	継続性		
受注③ FAXによる 受注	33	A		受注入力担当者(営業部)の権限をID・パスワードで制限されている	34	M	MD	注文書受信時に当日の連番を記入し、受注入力処理後、FAX返信後に枚数チェックに使用している										
	35	A		受注入力時に、得意先マスタに登録のないものはエラーとなる					36	A		受注入力画面にエディットを掛けている RCW 受注日を過去日付でも入力可能						
										37	A	MD	価格は商品マスタの価格データが自動で計上される					
						38	AM	MD	FAX受注の入力後、注文伝票が出力され注文書と照合され、注文書に受注番号を記入した後、上長のチェックと押印を得ている。	38	AM	MD	FAX受注の入力後、注文伝票が出力され注文書と照合され、注文書に受注番号を記入した後、上長のチェックと押印を得ている。					
						39	M	MD	入力処理後(受注確定数量等記入後)の注文書を得意先にFAXで返送している	40			(重複のため削除)					
緊急出荷分の受注入力(フローに記載されていない)	41	M	MD	緊急出荷の場合は倉庫で入力する。 営業からの出荷指示をFAX送信で受け倉庫の出荷責任者が承認後にオペレータが受注入力画面から入力する。 電話での指示は受けないことになっている。 * 出荷指示のFAX(出荷責任者の承認印つき)は適切に保管されているか。														

対象サイクル 収入サイクル RCW: 弱点

Q: 4半期 M: 月次

W: 週次 D: 日次

MD: 1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動	実施頻度	正当性	項番	自動 / 手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動	実施頻度	正確性	項番	自動 / 手動	実施頻度	継続性	
	42	A	MD	受注入力処理(FAX受注と同じアプリ)では入力場所コードがデータに記入される * 入力場所コードの検索機能があり、緊急受注データの抽出が可能													
出荷①	43	A		受注ファイルから作成された出荷指図ファイルからしか出荷指示書は出力できない。 * システム出力以外の手書きの出荷指示書は存在しないか。 システム出力の出荷指示書に手書きで訂正したものは存在しないか	44			在庫管理システムでは出荷指示ファイルの変更はできない。出荷指示書の出力画面からは、内容の追加訂正はできない。 * 出力済みのデータについて、出荷指示ファイルにフラグが立てられている				在庫管理システムでは出荷指示ファイルの変更はできない。出荷指示書の出力画面からは、内容の追加訂正はできない。					
	45	M		出荷指示書なしで出荷することは許されていない	46	M		出荷口担当者が出荷準備完了をチェックして出荷指示書に記入している									
						47	M	D	出荷口担当者が出荷場所の在庫が無いことを確認した後で、出荷指示書をオペレーターに手渡ししている								
	48	A		出荷確定入力担当者(倉庫オペレーター)の権限はID・パスワードで制限されている	49	A		出荷準備完了が記入された出荷指示書から出荷NOの消し込みにより、出荷確認入力を行い、出荷指示ファイルに出荷済みのフラグが立てられる					50				(重複のため削除)
					51	AM	D	出荷確認入力後、出荷チェックリスト、未出荷リストが出力され(出荷指示書と1件ごとに)チェックされる	51	AM	D	出荷確認入力後、出荷チェックリスト、未出荷リストが出力され(出荷指示書と1件ごとに)チェックされる	52	AM			翌朝、ピッキング担当者の出力指示により在庫ファイルよりバランスチェックリストが出力され、バランスチェックが実施される。

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点

Q:4半期 M: 月次

W: 週次 D: 日次

MD:1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動	実施頻度	正当性	項番	自動 / 手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動	実施頻度	正確性	項番	自動 / 手動	実施頻度	継続性
出荷②					53	A	D	日次締め処理により在庫システムの出荷実績ファイルから出荷実績データが作成され販売管理システムの出荷実績ファイルを更新するが、送受信ログが、両システムで記録されている	53	A	D	日次締め処理により在庫システムの出荷実績ファイルから出荷実績データが作成され販売管理システムの出荷実績ファイルを更新するが、送受信ログが、両システムで記録されている	53	A	D	日次締め処理により在庫システムの出荷実績ファイルから出荷実績データが作成され販売管理システムの出荷実績ファイルを更新するが、送受信ログが、両システムで記録されている
									54	A		日次締め処理により在庫システムの出荷実績ファイルから出荷実績データが作成され販売管理システムの出荷実績ファイルを更新する際に、システム日付から出荷日を記入する				
										55	A		出荷日の日付で配送業者の受領印を押印した配送先別チェックリストと運送会社の送り状控えを業者から回収し、ピッキング担当者が保管している。 * 業者から荷物不足や破損の報告が無い限りは、単にファイルしてだけである。			
請求				省略				省略				省略				省略

対象サイクル 収入サイクル RCW:弱点 Q:4半期 M: 月次 W: 週次 D: 日次 MD:1日に何度も

Function	項番	自動 / 手動	実施頻度	正当性	項番	自動 / 手動	実施頻度	完全性(網羅性)	項番	自動 / 手動	実施頻度	正確性	項番	自動 / 手動	実施頻度	継続性
売上計上	56	M		RCW 月次更新処理の依頼が口頭のみで文書化されていない。	57	M		出力された部門別得意先別売上リスト(販売管理システムの出荷実績データ)と仕訳明細表(会計システムの仕訳データとの合計額)が照合される * 照合される売上データは、月末日の日付で計上された1か月分の合計値であり、明細データは印刷されていない。 取込処理につき、処理の売上仕訳データファイルと仕訳帳元帳ファイルのコントロールトータルやラン・ツー・ラン・チェックはなされていない。	57	M		出力された部門別得意先別売上リスト(販売管理システムの出荷実績データ)と仕訳明細表(会計システムの仕訳データとの合計額)が照合される * 照合される売上データは、月末日の日付で計上された1か月分の合計値であり、明細データは印刷されていない。 取込処理につき、処理の売上仕訳データファイルと仕訳帳元帳ファイルのコントロールトータルやラン・ツー・ラン・チェックはなされていない。	58	A		月次処理の実施日付がシステム日付で売掛金元帳ファイル、売上明細ファイルに書き込まれる